

(概要版)

# 社会的事象の意味を多角的にとらえる力を高める社会科指導の工夫 一人々の思いや願いに視点をおいた「ネットワーク図」の段階的な作成と交流を通して

長期研修員 片貝 雅樹

## 社会科の学習に求められているもの

### 【新学習指導要領】

各種の資料から読み取ったことを**比較・関連付け**・総合しながら再構成する学習や考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習の充実

### 【群馬県学校教育の指針】

「思考力、判断力、表現力の育成」を社会科における重点として位置付け、その手だての一つとして「複数の資料を**比較・関連させ**、社会的事象の特色や意味を考察させる場の設定」

## 児童の実態

- ・社会的事象と自分の生活とのかかわりの実感がもてない
- ・資料を比較・関連付けて考察することが不慣れ



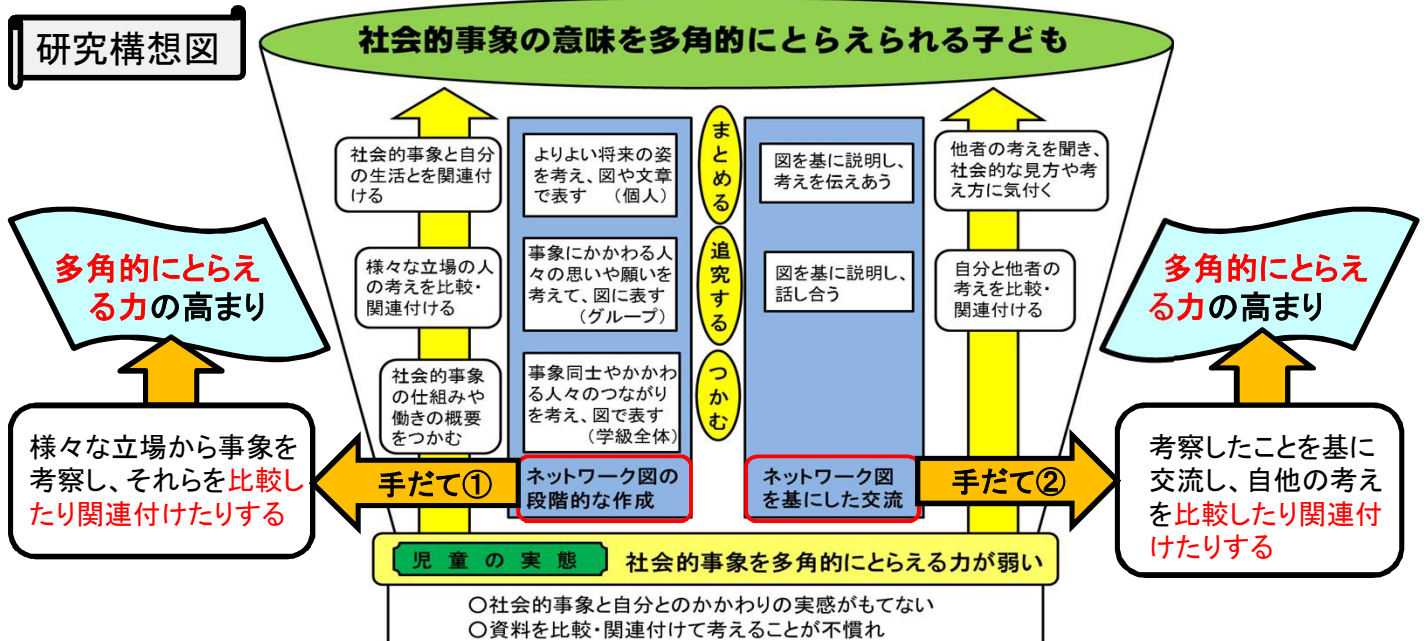
## 社会的事象の意味を多角的にとらえる力を高める必要がある

社会的事象の意味を多角的にとらえ、多くの人々のかかわりに気づき、その中で自分はどこに位置付くかを考えることで、社会的事象と自分の生活とのかかわりを実感できる

### 多角的にとらえる力とは・・・

- ①社会的事象について様々な立場から考えたり、異なるとらえ方をしたりすることができる力
- ②他者の考えを基に新たな考えをもつことができる力

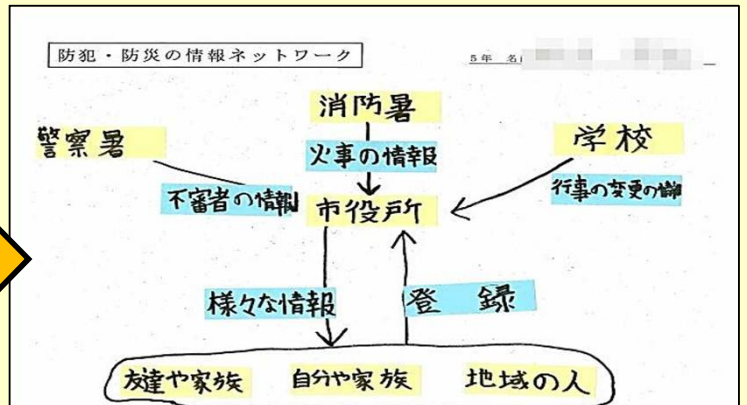
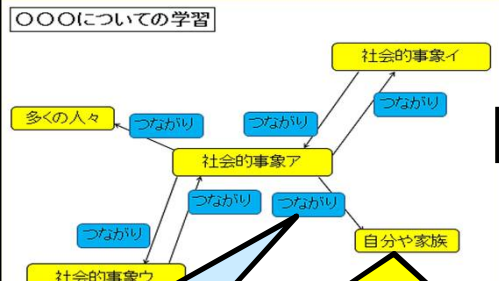
## 研究構想図



# 「ネットワーク図」の段階的な作成

右側は児童が作成した「ネットワーク図」

①社会的事象(にかかわる人々)同士を矢印で結び、仕組みや働きを「ネットワーク図」で表す。

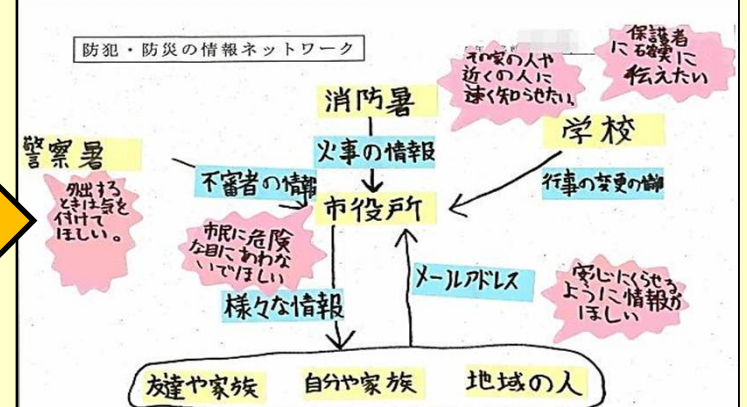
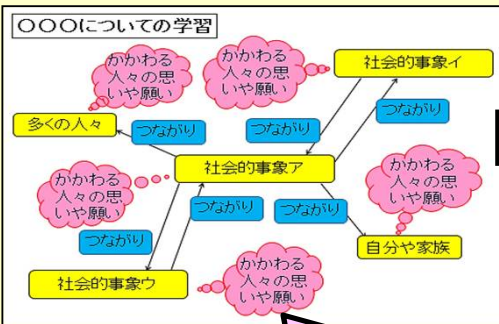


事象間でやり取りされるものを『青』の付箋紙に書き、矢印の付近に貼る

事象やかかわる人々に『黄』の付箋紙に書き、台紙に貼る(「自分」を位置付ける)

視覚的にとらえやすく、社会的事象の仕組みや働きの概要を理解しやすくする

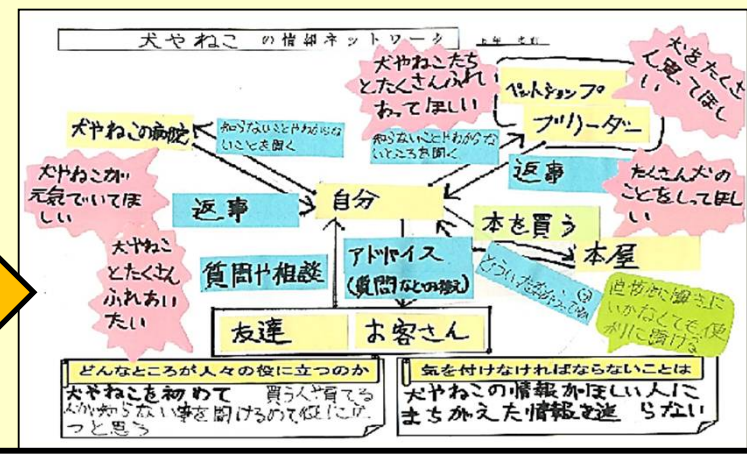
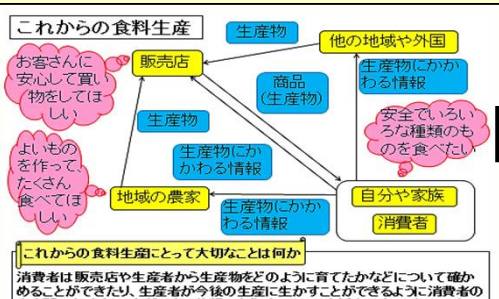
②社会的事象にかかわる人々の思いや願いを考え、「ネットワーク図」に表す。



人々の思いや願いを『赤』の吹き出し型の付箋紙に書き、事象やかかわる人々の付近に貼る

社会的事象にかかわる様々な人々の立場に立って考察し、社会的事象の意味を多角的にとらえる力を育てる

③単元のまとめの学習では、自分たちの生活をよりよいものにする社会的事象の将来の姿を考え、「ネットワーク図」や文章で表す。

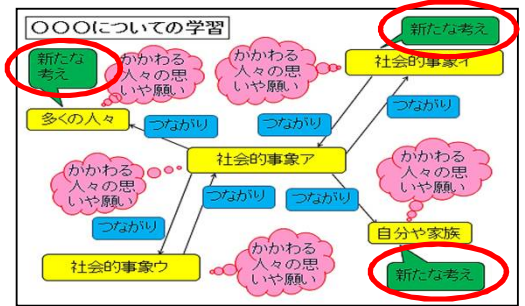


作成した「ネットワーク図」を基に考えたことを文章で表現する

学習内容をふり返り、社会的事象の事象同士のつながり、かわる人々の思いや願いを考えて図に表すことで、社会的事象の意味を多角的にとらえる力を高める



# 「ネットワーク図」を基にした交流



交流を通し、自他の考えを比較したり関連付けたりする

必要に応じて、修正を加える

## 実践授業(第5学年・単元名「情報と社会」)

### 「つかむ」過程

資料を基に学級全体で防犯・防災の情報ネットワークについての「ネットワーク図」を作成。

学習感想から、多くの児童が情報ネットワークの概要をつかむことができたと考える。

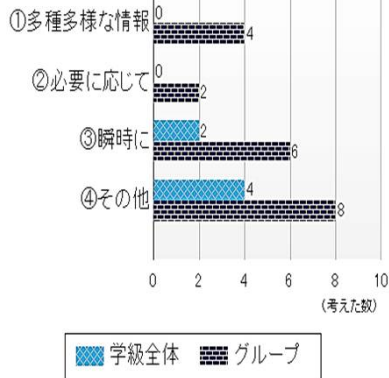
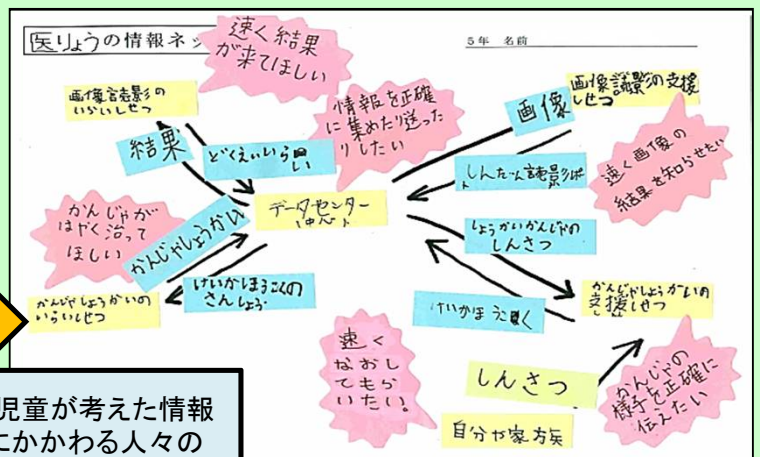
### 学習後の児童の感想

今日の勉強でコアラメールなどいろいろなことを知らずに使っていたのでびっくりしました。市役所が情報誌を送っていることが分かりました。

### 「追究する」過程

教育・福祉・医療の情報ネットワークについてグループで調べ、「ネットワーク図」を作成。そして、人々の思いや願いを考えて図に表し、それを基に交流を行った。

グループで考えた人々の思いや願いを表した図



左の図は、児童が考えた情報ネットワークにかかわる人々の思いや願いを、情報ネットワークのもつ働きの観点別に分類したものである。学級全体で考えた際は③の観点しか挙げなかったが、グループで考えた際には、複数の情報ネットワークを追究したことや自分たちが作成した「ネットワーク図」を利用したことで、かかわる人や場所のつながりをより意識しながら考え、①と②の新たな観点到に気付くことができた。

交流後に追加された思いや願い

市役所に正確に情報を伝えたい!

③瞬時に

全グループが修正できた

④その他  
利用者の人に元気でくしてほしい。

## 「まとめる」過程

各自で人々の役に立つ情報ネットワークについて考え、「ネットワーク図」を作成。ここでは、情報ネットワークの働きや利用するときの注意点も考え、文章で表した。そして、その図を基に交流を行った。

「ネットワーク図」を作成する児童の様子



## 児童の考えた思いや願い

この情報ネットワークを、いろいろな本などにしりたい

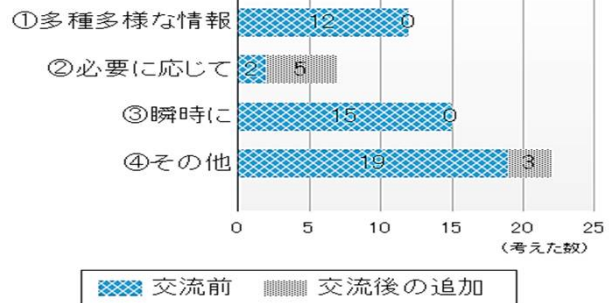
① 多種多様な情報

えいごの情報をお伝えして、役に立てばいい

③ 瞬時に

新しい情報さばやく聞きたい

② 必要に応じて



上のグラフは、児童の考えたかわる人々の思いや願いを「追究する」過程と同様に分類したものである。「追究する」過程に比べ、観点①、②、③の割合が増えている。「追究する」過程では、児童は「受信者」の立場で考察していたが、今回は自分を「発信者」の立場におき、これまでと異なった立場から考察したことで、情報ネットワークのもつ複数の働きにより着目できたのではないかと考える。

## 児童の学習のまとめの記述

情報ネットワークはたくさんの人たちが利用するので、発信者はまちがった情報を送ったりしてはいけない。また、受信者は、個人情報などを教えるべきではない。など、発信者も受信者も気を付けなければいけない。情報ネットワークの良さは、知りたい情報がすぐわかる、というのだと思います。

## 成果

- 「つかむ」過程では、「ネットワーク図」を作成することで社会的事象の仕組みや働きが視覚的にとらえやすくなり、その概要を理解することができた。
- 「追究する」過程では、人々の思いや願いを「ネットワーク図」に表したり、交流で自他の考えを比較したり関連付けたりしたことで社会的事象の意味を多角的にとらえる力を育てることができた。
- 「まとめる」過程では、社会的事象の将来の姿について考えたことを「ネットワーク図」や文章でまとめ、交流を行ったことで社会的事象の意味を多角的にとらえる力を高めることができた。

## 課題

- 自他の考え方の違いを明確にするために、「ネットワーク図」に表した人々の思いや願いを分類・整理する活動を取り入れることが必要である。
- 児童が比較したり関連付けたりしやすいように、同じものについて調べたグループ同士で交流を行うなどの工夫が必要である。

問い合わせ先 群馬県総合教育センター  
担当係：義務教育研究係 0270-26-9213(直通)